

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	青少年の健全育成の充実			総合計画コード	214
部名	福祉部	主管課名	こども未来課	主管課部課コード	040300
関連部課名	生涯学習部(生涯学習・スポーツ課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	学校、家庭、青少年の育成に関する市民団体などとの協働による青少年健全育成活動が推進され、青少年が健全に育つまちとなっている。				
施策概要	青少年の健全育成に対する市民の意識啓発を図るほか、関係団体の活動への助成や支援を行い、関係団体、学校、事業者などと連携し、地域全体で青少年健全育成の体制づくりを進めるとともに、青少年の健全育成や自立を困難にしている課題等を把握し、自立への支援や非行防止活動を推進する。				
個別計画関連計画	計画名称	朝霞市子ども・子育て支援事業計画	計画期間	H 27 年度	～ H 31 年度
		第2次朝霞市生涯学習計画		H 19 年度	～ H 28 年度
		朝霞市教育振興基本計画		H 25 年度	～ H 34 年度

2. 実施結果

H28年度の施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 朝霞市青少年育成市民会議、朝霞市子ども会連合会、青少年相談員朝霞市協議会に補助金を交付し各々の団体の活動を支援した。 青少年育成市民会議と共催で諸事業を実施した。 ふれあい体験事業(親子ハイキング):5月、青少年健全育成の集い:7月、親子ふれあい映画会:7月 駅頭キャンペーン(2回):7月・12月、ふれあい標語の募集・選考、機関紙「ひまわり」の発行(年2回):6月・12月、「青少年を守り育成する家」の看板の設置の推進など 成人の日に新成人代表、青少年相談員、東洋大学管弦楽団の協力を得て、成人式を開催した。 					
H28年度の基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	青少年の非行を防止し、事件や事故に巻き込まれないよう、青少年の健全育成に対する市民の意識を高めるとともに、地域全体で推進するため、啓発活動等を行なった。				
	子育てがしやすいまち	青少年の健全育成を目的とする団体に補助金を交付し、各団体が行なう各種事業や活動を通じて、子どもの健やかな成長を図る側面から、子育てへの支援を行った。				
	つながりのある元気なまち	青少年の健全育成を図るため、市民の理解とともに、関係団体や学校、事業者等と連携し、地域全体で青少年の非行防止や健全育成の体制づくりを推進した。				
	自然・環境に恵まれたまち	青少年育成市民会議との共催で、ふれあい体験事業(親子ハイキング)を実施し、親子で豊かな自然や環境に触れ合いながら、目的地まで散策した。				
総コスト(事業費+人件費)	単位:千円(決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		7,035	—	—	—	—

指標名(説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
① 青少年を守り育成する家の数		540	550	560	570	580
	(説明) 青少年を守り育成する家の趣旨に賛同し、協力する当該年度の住宅・店舗・公共施設登録数	524	—	—	—	—
② 青少年健全育成啓発キャンペーン参加者数		320	325	330	335	340
	(説明) 朝霞駅、朝霞台駅、北朝霞駅の各駅頭で行っている青少年健全育成啓発キャンペーン(年2回)の延べ参加者数	259	—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 青少年を守り育成する家の数については、登録者の高齢化や就労、転出、店舗の閉店などから、登録を辞退する申し出があり、新たな登録を呼びかけたものの、目標を下回った。 また、青少年健全育成啓発キャンペーンの参加者数も、目標を下回ったが、これは7月の実施当日の悪天候が影響し、開始時刻の直前まで実施の判断を保留としていたことなどが考えられる。 なお、12月に実施した際は、天候にも恵まれ、予定どおり、多くの関係団体や中学生の参加協力をいただいた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 社会状況や家族形態等の変化により、青少年の自立や社会参加がますます困難になり、地域とのつながりの希薄化が懸念されるなど、青少年を取り巻く環境は著しく変化している。 また、情報通信機器の普及による情報過多やインターネットを介しての犯罪、危険ドラッグ等の薬物使用など、青少年を巻き込んだ事件・事故が顕在化しており、今後も増加することが考えられる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 社会状況等の変化により、青少年と地域とのつながりの希薄化が懸念される中で、青少年の地域社会への帰属意識を醸成するとともに、社会参加意識を高めていくことが課題である。 また、青少年の健全育成に関する施策を、さらに推進するためには、より多くの市民や関係団体が青少年の健全育成に関心を持ち、市や関係団体の取り組みに積極的に関わっていくような体制づくりが課題である。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 青少年の地域社会への帰属意識を醸成するとともに、社会参加意識を高めていくための機会の提供や取り組みを関係団体と検討する。 また、関係団体や学校、事業者等と連携し、地域全体で取り組む体制づくりを推進し、補助金を交付している各団体の会員や賛同者を増やすため、広報やホームページ、機関紙などを活用し、引き続き、募集や周知に努める。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 青少年の健全育成は、地域や市民が大きな役割を果たすことが期待される施策であることから、補助金を交付する各団体の自主性を尊重しながら、行政として必要な支援のあり方を検討し、相互に協力や補完する体制づくりが必要である。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
	1 青少年健全育成事業	8,521	7,035	5	5	現状のまま
	2 成人式事業	—	—	5	5	現状のまま
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)	8,521	7,035	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【青少年問題協議会】 市が実施した、青少年健全育成事業の取り組みや、その進捗状況を報告するとともに、関係機関における最近の青少年問題等への取り組みについての情報提供を基に、情報共有や意見交換等を行いながら、青少年問題への対策や青少年の健全育成への課題を整理した。					
部長の意見	情報通信機器の急速な普及による犯罪や危険ドラッグ等の薬物使用など、青少年を巻き込んだ事件や問題が顕在化している中で、行政が地域や家庭、学校、関係団体などと協働して、青少年を守り育てることが重要である。 各施策を実施するうえで、引き続き、各方面と連携を図り、地域全体で事業を展開していく仕組みや体制づくりを推進していく。					